

県民所得から見た

本県と群馬県 (I)

昭和36年県民所得推計結果の報告が、先般公表されたわけでありますが、こうした県内経済のありさまを他の都府県と比較してみるのも、何かと参考となります。

しかし、昭和36年分については、現在未公表の都府県

が多く、その全部を引例することは出来ませんが、ここでは、とりあえず国と本県ならびに群馬県について概観してみましよう。

(第1表)

生産所得比較表

産 業 別	昭和35年		昭和36年		対前年比		構 成 比	
	所得額 (A)		所得額 (B)		B/A		A B	
		百万円	百万円		%	%	%	%
総 額	国	11,903,700	14,117,700	118.6	100.0	100.0	100.0	100.0
	茨城	190,988	245,397	128.5	100.0	100.0	100.0	100.0
	群馬	154,056	185,094	120.1	100.0	100.0	100.0	100.0
第 1 次 産 業	国	1,801,400	2,025,300	112.4	15.1	14.3	14.3	14.3
	茨城	65,047	70,395	108.2	34.0	28.7	28.7	28.7
	群馬	41,795	47,099	112.7	27.1	25.5	25.5	25.5
農 業	国	1,296,200	1,396,000	107.7	10.9	9.9	9.9	9.9
	茨城	56,399	60,515	107.3	29.5	24.6	24.6	24.6
	群馬	38,390	43,037	112.1	24.9	23.3	23.3	23.3
林 業	国	233,700	313,100	134.0	2.0	2.2	2.2	2.2
	茨城	6,220	7,032	113.1	2.2	2.9	2.9	2.9
	群馬	3,307	3,856	116.6	3.1	2.1	2.1	2.1
水 産 業	国	271,500	316,200	116.5	2.3	2.3	2.3	2.3
	茨城	2,428	2,848	117.3	1.3	1.2	1.2	1.2
	群馬	97	206	212.0	0.1	0.1	0.1	0.1
第 2 次 産 業	国	4,523,700	5,485,400	121.3	37.8	38.7	38.7	38.7
	茨城	55,716	89,290	160.3	29.2	36.4	36.4	36.4
	群馬	44,636	56,769	127.2	29.0	30.7	30.7	30.7
鉱 業	国	203,900	226,900	111.3	1.7	1.6	1.6	1.6
	茨城	4,345	4,747	109.3	2.3	1.9	1.9	1.9
	群馬	2,177	2,158	99.1	1.4	1.2	1.2	1.2
建 設 業	国	722,900	906,800	125.4	6.1	6.4	6.4	6.4
	茨城	8,202	9,589	116.9	4.3	3.9	3.9	3.9
	群馬	7,459	7,973	106.9	4.9	4.3	4.3	4.3
製 造 業	国	3,596,900	4,351,700	121.0	30.2	30.8	30.8	30.8
	茨城	43,170	74,954	173.6	22.6	30.6	30.6	30.6
	群馬	35,000	46,637	133.2	22.7	25.2	25.2	25.2
第 3 次 産 業	国	5,633,600	6,671,700	118.4	47.1	47.0	47.0	47.0
	茨城	70,224	85,711	122.1	36.8	34.9	34.9	34.9
	群馬	67,625	81,227	120.1	43.9	43.8	43.8	43.8
卸 売 小 売 業	国	1,925,800	2,219,600	115.3	16.2	15.7	15.7	15.7
	茨城	23,327	28,433	121.9	12.2	11.6	11.6	11.6
	群馬	20,818	27,084	130.1	13.5	14.6	14.6	14.6
金 融 保 険 不 動 産 業	国	876,100	1,055,300	120.5	7.4	7.5	7.5	7.5
	茨城	6,052	7,206	119.1	3.2	2.9	2.9	2.9
	群馬	8,682	11,326	130.4	5.6	6.1	6.1	6.1
運 輸 通 信 業 その他公益事業	国	1,173,200	1,434,800	122.3	7.8	10.2	10.2	10.2
	茨城	11,389	13,108	115.1	6.0	5.3	5.3	5.3
	群馬	9,167	10,411	113.6	6.0	5.6	5.6	5.6
サ ー ビ ス 業 其 他	国	1,658,500	1,962,000	118.3	13.9	13.9	13.9	13.9
	茨城	29,457	36,964	125.5	15.4	15.1	15.1	15.1
	群馬	28,917	32,406	112.1	18.8	17.5	17.5	17.5

第1表でもわかりますように、昭和36年県内生産所得の総額は2,450億円で、昭和35年の1,910億円に対し、28.5%と近年にない大きな増加を示しております。

これは、国民所得の増加率18.6%、群馬県の120.1%を大きく上回るもので、本県の36年における県内経済の好調をしめしております。

すなわち、これら生産所得の構成についてみますと、本県の場合、第1次産業が全体の28.7%で、これは国の14.3%、群馬県の23.3%にくらべ、まだ農業のウエイトが両者より高いということを意味しております。

したがって、その前年との伸長をみてみましても、本県の108.2%という増加率は群馬県の112.7%にくらべ大部劣っておりますが、これは両県の農業経営構造の相異によるものと思われまします。すなわち、両県の農家数についてみますと、本県の場合専業農家の全農家に占める割合は40.3%、第1種兼業農家28.4%、第2種兼業農家31.3%で、これを群馬県についてみると、専業農家28.4%、第1種兼業農家39.1%、第2種兼業農家32.5%で、本県は専業農家が、群馬県では第1種兼業農家のウエイトが高いことがわかります。

また、両県の家畜飼養頭数をみても、群馬県においてすでに農業経営のなかに畜産事業を有望産業として実行されつつあることをしめております。

家 畜 飼 養 頭 数

	乳用牛	役肉用牛	馬	めん羊
	頭	頭	頭	頭
茨城県	20,550	72,780	12,540	4,700
群馬県	42,450	52,040	4,790	11,940

次に第2次産業であります。本県は36.4%で、国の38.7%、群馬県の30.7%とやや近位にありますが、これらを前年のそれと比較してみると、本県の160.3%という急伸は、国の121.3%、群馬県の127.2%を大きく引きはなしております。これは、とくに製造業の173.6%の増加率をみてわかりますように、県内産業の近年にない活況とした県北工業地帯の発展と、県南地区の工場誘置等によりその効果があらわれて、県内経済も堅実な伸びをみせた結果ということができます。

このことは、群馬県においても同じ傾向がみられますつまり、群馬県の133.2%という増加は国の場合よりも大幅な伸長をみせておりますが、同県の結果報告書でもこの傾向を工場誘置等が軌道に乗つたものとみておるようです。

また、第3次産業については、本県は34.9%で、国の47.0%、群馬県の43.8%にくらべ、一步ゆずつておりますが、これは第1次産業構成比の進減、第2次産業の増伸により、漸次その前進が考えられます。

最後にこのようにして、36年の県内生産所得をながめた場合、大きな特色として始めて第2次産業の比重が第1次産業の28.7%をおさえ、36.4%とトップに立つたことです。このことは、本県の経済活動の一つの動向を察知する手がかりともいえます。

なお、次号では分配所得についての比較を予定しております。
(経済統計係長 横須賀弘)

☆統計資料案内☆

<不 定 期 刊 行 物>

資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者	資 料 名	調査年 刊行年	発 行 者
土地・人口			事業所統計調査結果報告	35年	福 岡 県
国勢調査報告(産業従業上の地位)	15年	総 理 府 統 計 局	個人商工業経済調査年報	36年	"
" (山形)	35年	"	鳥取県鉱工業生産指数	35年	鳥 取 県
" (山梨)	"	"	工業統計調査結果報告	36年	福 島 県
" (徳島)	"	"	栃木県毎月人口調査結果報告書	37年	栃 木 県
" (長崎)	"	"	就業構造基本調査報告	"	"
" (奈良)	"	"	税 務 統 計 書	36年	鳥 取 県
" (宮崎)	"	"	個人商工業の実態	36年	神 奈 川 県
従業通学地に関する結果早速(埼玉)	"	"	愛媛県工業の現状と推移	38年	愛媛県総務部統計課
" (長崎)	"	"	衛 生 統 計 年 報	36年	佐 賀 県
" (秋田)	"	"	三重県民所得推計結果	35年	三 重 県
" (愛媛)	"	"	農業基本調査結果報告書	37年	群馬県総務部総務課
" (山梨)	"	"	事業所経済統計調査報告	35年	石 川 県 統 計 課
" (香川)	"	"	愛 媛 県 政	1962年	愛 媛 県
農林水産			長野県の公営企業	1963年	長野県公営局
農林漁家就業動向調査報告	36年	農林省統計調査部	県民所得報告	36年	長 野 県
交通通信			学校基本調査結果報告	37年	神 奈 川 県
郵政統計年報	"	郵 政 省	労働力実態調査結果報告	36年	"
商 工			香川県の工業	36年	香 川 県
事業所統計調査報告	35年	総 理 府 統 計 局	教育統計調査結果報告書	37年	山口県総務部統計課
法人企業統計年報	36年	大蔵省理財局統計課	工業統計調査報告	1961年	東 京 都 静 岡 県 企画調整部 統計課
段ボール工業設備調査書	37年	通商産業大臣官房調査統計部	静岡県経済指標	38年	神 奈 川 県
その他			福島県林業統計書	37年	福島県農地林務課
昭和37年結果の概要	38年	"	静岡県鉱工業生産指数	35年	静岡県企画調査部 統計課
日本標準産業分類	1963年	行 政 管 理 庁	工業統計調査結果報告書	36年	"
日本現勢	38年	共 同 通 信 社	神戸市統計書	36年	神 戸 市
日本の統計	1962年	総 理 府 統 計 局	統計事務概要	38年	香 川 県 総 務 部 統 計 課
都道府県			事業統計調査乗用トラック導入状況調査	36年	日本専売公社水戸 地方局
生活保護統計年報	36年	愛媛県民生部	茨城県農林水産部	37年	
工業統計調査結果報告(昭和36年中県)	"	神 奈 川 県 総 務 部	市町村農林漁業所得推計参考資料	38年	"
(下火災状況図)消防統計	"	栃 木 県 総 務 部 消 防 防 災 課	" 集計表	38年	"
学校基本調査報告	37年	東 京 都	茨城県税務統計書	"	" 総務部税務課
学校保健統計調査報告	35年	"	市町村農林漁業所得推計の手ひき	38年	" 農林水産部企画課
埼玉県勢要覧	37年	埼 玉 県			

経済成長と所得格差

県民所得は、県民の生活水準の尺度としてあるいは県の経済がどのように発展しているかということで、各方面から注目されておりますが、このほど昭和36年の茨城県民所得の推計結果が明らかにされました。

それによりますと昭和36年の県民所得の総額は2,450億円で、35年の1,910億円に対し28.5%と第1図をみてもわかるように近年にない大きな増加を示し、国民所得の増加率18.6%を上回り36年における県内経済の好況を物語っております。

第1図をみると、30年にくらべ36年は県民所得が倍以上になっていることが容易に理解出来ると思います。事実この6年の間に生産所得の総額は116.7%の増加を示しております。これを産業別にみると、第1次産業が43.6%の増加で、これに対し第2次産業は6年間に実に274.8%と驚異的な伸びを示し、第3次産業も112.1%の増加と順調に伸びております。

ではこの6年間に所得構造がどう変化したかをみますと、30年には第1次産業43.3%、第2次産業21.0%、第3次産業35.7%でありましたが、36年には第1次産業から順に18.2%、51.8%、30.0%とその構造には大きな変化が認められます。第2次産業での著しい所得増加と、所得中に占める第2次産業の割合が年々増加しているということが、本県経済が目覚ましい伸長を示している大きな要因であるようです。

ではここで所得格差の問題について考えてみましょう。36年の国民1人当りの所得は145,600円、これに対し県民1人当り所得は111,400円で、国の76.5%にあたり、その格差はまだ相当あるようです。しかし、35年の

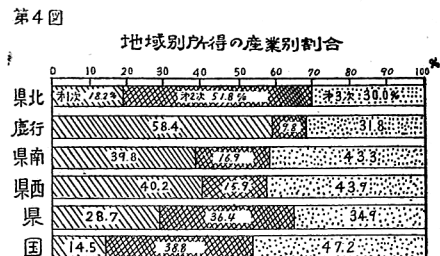
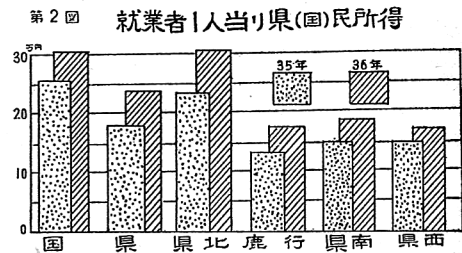
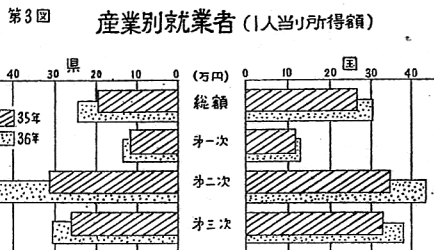
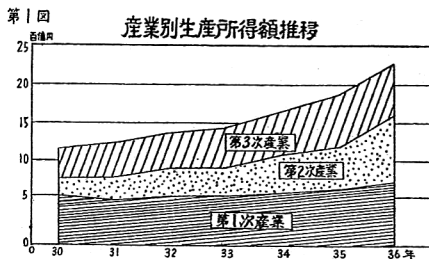
75.0%にくらべ僅かではありますが格差は縮小されております。

また地域別の所得格差をみますと、第2図のとおり36年の本県就業者1人当り所得額237.7千円を100%とした場合、県北は129.2%で他の3地域を大きく引離しており、これについて県南の79.6%、鹿行の74.5%、県西の73.8%となつております。そして全国と県北の水準がほぼ同じであることがわかります。

では産業別にみるとどうかと申しますと、第3図にみるとおり、まず第1次産業が他の産業にくらべ極めて低いことが注目されます。36年の本県就業者1人当り所得額を100%とした場合、各産業のそれは、第1次産業で53.7%、第2次産業は183.7%、第3次産業は130.5%であり、第1次産業と第2次産業との格差は相当に大きなものであります。これを国についてみると第1次産業は44.5%で県の場合より格差が大きくなつており、第2次3次産業では県にくらべその格差は小さい。

地域間の所得格差を理解するうえでそれぞれの地域の所得構造をみることは非常に重要なことであると思われれます。第4図をみると、まず第1に県と国との所得構造についていえることは、第1次産業が国では14.5%であるのに、本県では28.7%と国にくらべその割合が大きいことであります。このことは県北と鹿行ではなお一層顕著なものとなつており、このあたりに地域的な所得格差の大きな原因がひそんでいるようです。

このようにみてまいりますと、経済の高度成長下における所得格差の問題が、極めて重要なものであることを私達は考えさせられます。(生井)



市 町 村 の 横 顔

大 野 村

1 概 況

大野村は県の東南部に位し、東は太平洋に面し、西は北浦を隔てて行方郡に相對し、東南は鹿島町に、北は大洋村と境している。

昭和30年3月31日に大同村と中野村が合併し、大野村の誕生をみた、この地域の住民は早くから合併の必要性を認識していたため、当時としてはスムーズに合併が行なわれたところの一つである。

水戸から役場までは、バスでまず鉢田まで行き、ここから、海岸廻り鹿島行に乗って荒井で下車、あるいは湖岸廻りで額賀で下車、役場は荒井、額賀約4kmの中間にあるので、朝夕はこの間をバスが通っているが、それ以外の時間なら徒歩で行かなければならない。いずれにしても役場へ行くにはあまり便利がよくない。しかし、このせわしい世の中に生活していると、たまにはのんびりと田舎道を歩くのもまた一興である。

昭和38年2月末の世帯数は1,792、人口は10,563人、この村も農村共通の悩みである人口の減少が目立つており、毎月100人近くも減っている。中学、高校卒業者のほとんどはこの村を離れていつてしまい、あとつきもいなくなる始末で、これらの対策も村としてもいろいろの角度から考慮しているとのことである。

2 産 業

昭和35年国勢調査による産業別就業者数は、第1次産業が84.8%で4,882人、第2次産業は僅かに4.3%、第3次産業10.9%でそのほとんどが農林水産業に従事している。

湖岸、海岸地帯が湿地となっており水田が拓けているが、乾燥された中央部は台地で、畑と山林になっている。耕地面積は1,558haでそのうち、田は620ha、畑は923haでその割合はおよそ4対6である。

農作物の代表的なものは甘藷であり、作付面積も756haと畑の81%にあたる。1haからは800貫もの甘藷が収穫出来るが、収入面では反あたり25,000円と極めて低く、戦後甘藷の価がよかつた頃とくらべると雲泥の差があり農家のふところ具合もあまりよくないようだ。このほか煙草、トマト、蔬菜などが生産されるが、現在のところ農

家の収入源は穀類と甘藷が主である、そのために経済的水準も低い、一方生活内容は年々向上をよぎなくされており、収支のバランスをそこなう恐れもある。

須賀田村長さんにこれからの村づくりの抱負をうかがいますと、「これまでは中学校の統合、村道農道の改修整備など基礎づくりを行なつて来たが、これからは農家経済を向上させるよう努力したい」といつておりました

村では、38年度に農業構造改善事業計画の指定を受けるべく現在着々とその準備を進めている。また従来の甘藷中心の畑作を野菜にきりかえようと、試験的にビニールハウスによるキウリ、トマトなどの促成栽培が行なわれ、現在一戸100坪ぐらいで8戸で作つており、初年度は設備費など相当の経費を要するが、甘藷の反収25,000円にくらべ、このほうは100万円と桁違いの収入でこれが成功すれば全村に広げて行くとのことである。鹿行地区の開発が促進され、近くに大消費都市が誕生すれば、このあたりの農業は現在とは異なつた高度農業となつて経済的にも相当にレベルアップされるであろう。

3 教 育 文 化

教育施設の充実に重点が置かれているようで、合併後2年にして統合中学校が誕生、31年には鉄筋コンクリート2階建、延1183m²、10教室が1,940万円で建設され、更に今年3月には、1,600万円で、特別教室が主な校舎が完成し、これと同じく郡内に誇る794m²のモダンな体育館が完成する。

額賀部落は新生活運動推進指定地区になつており、婦人会、青年団が中心になり、冠婚葬祭の簡素化など生活改善を進めている。



〔大野中学校体育館〕



人間雑話 (10)

茨城大学教授 塚本勝義

よく「あの人ははつきりしない」と評する。しかし、はつきりしないのは、あの人だけではなさそうだ。よく考えてみれば、人間の言うこと、やることはすべてはつきりしていない。

志賀直哉の名作「茫の犯罪」を読むと、殺人の動機があいまいだ。奇術師茫は観衆を前にし、立会警察官の鼻の先で、ほうちようを投げて妻を殺した。妻を板戸の前に立たせておいて、あたらないようにほうちようを投げつける芸をやっていたんだ。前夜、かなりの痴話喧嘩をした。それからお互に顔を合わせないでいた。舞台上初めて視線が合ったわけだ。このとき茫は「これはあぶない」と感じたそうだ。妻は「殺されるな——」という目つきをしたそうだ。夢中で投げたら、見事に首に命中して、一発できまつてしまった。それは「殺すかも知れない」意識と「殺されるかも知れない」意識とが瞬間的にかみ合つて発生した殺人事件だった。もしも妻の方で「殺されるな——」という意識を持たなかつたら、茫の投げたほうちようも、ばかげた所に突き刺さつたろう。妻の抱いた不安が、茫のほうちようを吸い寄せたともいえる。すると実質的には共犯ともなろう。検事は不起訴にしたと結んである。われわれの行為の不確かさを象徴したような作品だ。わたくしは教員生活40年になる。どんな原因で教員になつたのか明確でない。いつの間にか教員になり、いつの間にか40年の歳月を送迎してしまつた。だから、行為の動機などを、はつきり説明するのを耳にすると、いつたいそれがほんとかねと疑いたくなる。

周知のように芥川竜之介は「或旧友へ送る手記」の中で、自殺者の心理は自分でもよくわからない。自分もほんやりした不安で死んで行く、といつている。その人のすべてのことが、ある一事の原因だと太宰治は言つている。人間の生きる全体的活動の一点を原因とか動機だとか言うのがあたつているようだ。恋愛の場合なんかだつて、ただもやもやと好きになつてしまう。親兄弟に意見されるときには、いかにも殊勝な説明をやつてのけるが、どうせあとでくつつける理屈だ。数学の問題を解くように、筋道たつた過程を経て、かくかくの理由で彼女と恋愛をしなければならぬと思索してラブレターを書く男はいない。ただむしように好きになつて書きまくるというのがほんとのところだろう。漱石は、恋は一目で

成り立つと言つている。文豪だけあつて、事の真実を見事に言い当てている。

やることにはつきりしない上に、やることを説明する言葉がまた至極あいまいだ。あいまいな事を、あいまいな言葉で説明するんだから、結果はいよいよあいまいになる。中年の夫婦などは、愛情のなくなつた夫婦生活はまるで砂をかむようだなんていう。それなら「愛情」とは何かと尋ねると、さつぱり要領を得ない。辞典には、「愛する心」とある。愛する心とは何か、わかつたようでわからない。明治の樋口一葉は「愛憎」と考えていたようだ。愛の実感されるところに必ず憎しみも実感されるところを考えたらしい。彼女は、いわゆる理屈の強勉をやつていない。歌を詠み、日記を丹念に書いて筆をならし、あとは生きている人間を探求した。だからこんな具体的な愛情観も生まれたのであろう。

隣の主人の間抜けは面白いだけだ。わたしの夫の頓馬は腹立たしさを感じる。前の家の坊やの成績の下つたのはあたり前と思うが、豚児の零点では小憎らしく感じる愛のあるところ、必ず憎しみが顔を出す。隣合わせというよりも、表裏をなしていると言つた方が真に近い。

中年夫婦になると、お互に或程度見限つている。見限つているものの捨てかねる。押入れの奥にしまい込んであるボロのようなもの。ろくなものでないことはわかり切つてるが、さりとして捨てるには惜しい。捨てるには惜しいのだから執着があり未練がある。だから、お宅のご主人様が若い女の方と歩つていましたが、なんて報告されようものなら、俄然愛憎がこんがらかつて五体から吹き出す。この怒りは恋愛期や新婚時代の愛情とは異なる。それは、怒りであり、憎しみであり、独占慾であり、支配慾であり、そして、しつこい愛でもある。正に愛である。愛でなかつたら、どうにでもなれ、と捨ておく。そのままに置けないといきり立つ以上、明らかに愛の烈しい発作だ。怒りとすれば、愛憎の中味には、怒りも、憎しみも、独占慾も支配慾も含まれている。未練だつて勿論含まれている。極めて複雑な質を有する。だから、愛情が実感できないという中年夫婦の述懐は、夫婦生活をつづけている以上は錯覚というべきだ。ほんとうに愛情がないなら、とうに離婚しているはずだ。あいまいな言葉にひつかかつて事実を見失つてはなるまい。